

Q 3 不登校等の背景に学習不振があり、それがLDに起因すると推測される場合、その援助・指導における留意点は何ですか。

A 3 心理面への対応に加えて、学習困難それ自体の改善・克服のための個別的な援助・指導を、きめ細かな段階に分けて工夫することや、多様な分掌担当者が協力して行うことです。

不登校等の背景にある学習困難が、LDによるものかも知れないと推測される場合、別室登校等での小集団や個別の指導形態は、単に学校への心理的適応を段階的に図る意味に加えて、学習困難それ自体の改善や克服のための援助・指導としての位置づけをもつ必要があります。

各事例からも、該当児童生徒の心理 学習 の両面の援助・指導に、組織的に多様な分掌担当者のかかわりの工夫が行われていることが分かります。

～事例の別室登校指導での、心理的不適応と学習困難との改善・克服の手だて～

(表中の 心理 は主に適応の手だて 学習 は主に学習困難の改善や克服の手だて 下線部は担当者)

	事 例	不適応や学習困難	手 立 て の 例
相 談 室	事例2 B男	ADHDによるトラブルの多発	学習 別室指導は、プライドから拒否するので、 <u>担任外教員</u> が、授業の援助に入る。 心理 放課後や昼休みに相談室を開放し、少々乱暴な遊びでも、B男が好むことに留意して、ロールプレイングに取り入れ、他人の気持ちを酌み取り、トラブルを克服する体験をさせる。教師との信頼関係維持や心の安定も図る。
	事例9 I男	社会性の未熟、自己中心的な対人関係	心理 <u>教科担任制</u> の授業により多様な教師と交流。 心理・学習 得意なパソコンや漢字読みでは「小先生」にしたり、検定方式を取り入れ、意欲をさらに喚起する。苦手分野はきめ細かなプリント使用。
	事例10 J男	学習不振についての自己粉飾	学習 個別指導により、つまずきを自覚させる。 心理 適切な評価により自信をもたせる。 学習・心理 発達検査を行う。(スクールカウンセラー)
保 健 室	事例5 E男	特異な言葉使いで集団不適応	心理 別室指導での学習計画を、 <u>担任やかかわる教師</u> とともに、本人が立案する。自己決定による居場所づくりを図る。
	事例7 G子	G子の特異性を受け入れにくい母親との希薄な母子関係による社会性の未熟	心理 <u>養護教諭</u> が交換日記により、G子の思いを受け止め、心の開放を図る。 学習 一部教科の個別指導を障害児学級で(<u>障級担任</u> が)行う。
通級指導教室	事例1 A男	軽度の構音障害と言語性LDの疑い	心理・学習 言葉に関する学習よりも意欲的な数に関する学習(計算ソフトによるゲーム的学習)で達成感をもたせる。 学習 <u>通級指導担当者</u> による口腔器官の機能改善
	事例3 C子	身体活動のぎこちなさ等による遊び体験の不足	心理 登校時刻や散歩コースを自分で決めさせる。プレイセラピーでの平行遊びから3人以上での遊びへと発展させる。